

2016年10月25日

大阪市長 吉村洋文 様

一般社団法人関西経済同友会  
関西広域インフラ・うめきた委員会

### 「質の高いみどり」の議論を望む

JR大阪駅北側に広がる「うめきた2期区域」は、まちづくりの目標を「みどり」と「イノベーション」の融合拠点に掲げ、目下、区画整理などの事業が進行している。

長年にわたり『うめきた2期を世界都市にふさわしいみどりあふれる空間に』と提唱してきた当会は、期待を膨らませて事業を注視しているところであるが、いま改めて、「みどり」の質の議論を求める。

大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議（会長＝内閣総理大臣）の下部組織である大阪駅周辺地域部会（部会長＝大阪市長）が策定した「うめきた2期区域まちづくりの方針」の2つの柱のうち「イノベーション」については、検討組織が設置され、具体的なテーマや中身の議論が着々と進められている。その一方、「世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備える」と銘打った、もう一つの柱「みどり」については、議論の進展がない。

まちづくりの方針の検討の過程で、当会は、“ほんまもんのみどりを”を提案した。うめきたの「みどり」とは、いのち溢れる生き物で構成され、豊かな生物相と人間を包み込み、生命の交感がなされる「本物の緑地」であると訴え、そのうえで、「みどり」の質の議論と利用者の意見の反映なくして、世界を魅了する「みどり」はつくり得ないと指摘した。

その後、まちづくりの方針で、「みどり」は地区全体で概ね8ha、そのうち都市公園は地区中央部に概ね4ha（具体的には4.5ha）と、規模と公園の配置は決まったものの、肝心の「みどり」の質についての議論はなされず、今日にいたっている。

今年度中にも実施予定と聞いている民間の開発事業者募集（2次募集）に先立って、早急に、みどりの専門家に加え、市民、利用者を巻き込んだオープンな議論の場を設け、どのような質の高い「みどり」を創り出し、永続させていくのかについて、樹木が自律的に生育していける「生きた自然」としてのみどりの在り方から、憩いや癒し、集いの場としての森、林間小径、芝生広場、花畑など空間のイメージまで幅広い議論を行い、その議論の成果を、2次募集の要項にぜひとも反映してほしい。

うめきた2期を世界に誇れるまちにつくりあげるには、行政トップのリーダーシップが不可欠である。吉村市長には、選挙の際に言明された市民参加と透明性のある議論を、うめきたの「みどり」をつくりあげていくプロセスにおいて、ぜひ実現していただきたい。

以上